

ねこがねずみを追いかけるわけ

むかし、神さまが、動物を十二ひき集めて人間を守らせようと考えました。そこで、「十二支の順番を決めるので、何月何日にわたしのところに来なさい」というおふれを出しました。

牛は、

「モウ、わしは足がおそいから、おくれるに決まってるぞ。夜のうちに出かけよう」といって、前の日の夜に出かけました。ねずみは、こっそり牛の背中に乗っていきました。

牛がゆっくり歩いて行って、一番で神さまの御殿の門まで来たとき、ねずみが先にびよんと御殿にとびこんでしまいました。それで、ねずみが一番で干支頭となって、牛は二番になりました。

そのあと、とら、うさぎ、たつ、へび、うま、ひつじ、さる、にわとり、いぬがやって来ました。

いのししは、おくれたと思って、朝ごはんを食べながら走ってきたので、口がのびて長くなってしまいました。

ねこは、集まる日にちをわすれたので、ねずみにたずねました。ところが、ねずみは一日おそい日にちを教えました。

つぎの日にねこが行ったら、神さまが、

「おまえ、日にちをまちがえたな。顔をあらって出なおしてこい」としかりました。

それからのち、ねこは顔をあらうようになりました。そして、

「ねずみのやつ、おれをだましたな」といって、ねずみを追いかけて食べるようになったという事です。

おしまい。



『子どもと家庭のための奈良の民話』より

共通語再話…村上郁